

3 中学校における一声事例

生活安全

	必ず指導する基本的事項	一声事例
I-1 登下校時の安全	① 友達と一緒に登下校すること。	「部活動で帰りが遅くなったときには、家が同じ方向の友達と複数で帰りましょう。」
	② 防犯ブザーを鳴らし、点検すること。	「防犯ブザーの使い道を知っていますか。」
	③ 登下校時、どこがどのようなときに危険か確認すること。	「いつもと違う様子があれば、十分に気を付けましょう。」
	④ 電車やバスに乗るときは、痴漢・すり等に注意すること。	「被害にあった場合には、どうしたらよいでしょうか。」 「貴重品の管理には、十分注意しましょう。」
I-2 校内での安全	① 自分の身の回りを整えること。	「通路の安全のため、荷物を整理しましょう。」 「環境整備から、安全確保を心がけましょう。」
	② 活動するときや遊ぶときのきまりや約束を守ること。	「通行の妨げにならないように、友達の安全にも気を配りましょう。」
	③ 道具や遊具などを大切に、正しい使い方を知ること。	「道具を安全に使う方法を身に付けましょう。」 「便利な道具も使い方次第で、危険な道具に変わってしまいます。」
	④ 廊下や階段の歩き方、運動場やプールでの運動の仕方など施設の安全な使い方について確認すること。	「雨の日には、校舎内でけがをする生徒が増えてしまいます。けが人を出さないためにはどのようにすればよいですか。」
	⑤ 学校が定めた「不審者侵入時の緊急放送」を知ること。	「慌てずに、放送の指示に従って行動しましょう。」
	⑥ 不審者侵入時にとるべき行動を確認すること。	「不審者が侵入してきた場合は、先生の指示に従って速やかに安全な場所に避難しましょう。」
	⑦ 防犯教室の目的を確認し、主体的に参加すること。	「挨拶は、不審者の侵入防止等、防犯のためにも役立ちます。来校者には明るい声で挨拶をしましょう。」
I-3 家庭生活での安全	① 家に帰って玄関を開ける前に注意することについて確認すること。	「家に入るときは、後ろを見ましょう。」 「周囲の様子を確かめる習慣を身に付けましょう。」
	② 留守番をするときの約束を確認すること。	「家の人とルールをつくり、家族みんなで安全の意識をもちましょう。」
	③ エレベーターに乗る前と乗るときの「は・さ・み」の約束を確認すること。	「エレベーターは周りをよく見て、さっとボタンの前へ行きましょう。」
	④ 非常階段や屋上など、人目につきにくい場所の危険について知ること。	「家の近くで、入りやすく見えにくいところはどこでしょうか。」
	⑤ 友達の名前や電話番号などを知らない人から聞かれても応じず、すぐに学校へ連絡すること。	「名前や電話番号を聞き出す電話がかかってきたら、『分かりません。』と言って、すぐに電話を切りましょう。」
I-4 地域や社会生活での安全	① 一人で行ってはいけない場所を確認すること。	「繁華街や危険な場所で遊ばないようにしましょう。」 「危険な場所に一人で行ってはいけません。」
	② 人通りの少ない道や街路灯の少ない場所など「入りやすく、見えにくい」場所を確認すること。	「街灯の少ない道や人通りの少ない道は避けるようにしましょう。」
	③ 「いかのおすし」の約束を確認すること。	「『いかのおすし』の約束、全て言えますか。」
	④ 「子供110番の家」の場所を確認すること。	「通学路で、子供110番の家のステッカーがある場所を探してみましょう。」
	⑤ 夜間の外出で注意することを確認すること。	「夜間は、犯罪が増えます。夜間の外出を控えましょう。」
	⑥ 事件や事故に遭ったら必ず保護者、警察、学校に連絡すること。	「その場で解決せずに、必ず保護者、警察や学校に連絡しましょう。」 「おかしいなぁと思ったら、近くの大人やお店の人に助けを求めましょう。」
	⑦ 地域の犯罪防止活動を知り、自分にできることを考え、実行すること。	「身近な場所での取組から、自分の役割を考えてみましょう。」
	⑧ 山や海・川に行くときに注意することを確認すること。	「水難事故や転落事故など、不慮の事故に遭遇する危険性について考え、事故防止の具体策を考えましょう。」
I-5 スマートフォン・携帯電話等 使用時の安全	① スマホやゲームの一日の合計利用時間、使わない時間帯・場所を決めること。	「スマートフォン・携帯電話を使う約束を家族で話し合しましょう。」 「スマートフォン・携帯電話を使うとき、それは必要な使用かどうかを考えましょう。」
	② 必ずフィルタリングを付け、パスワードを設定すること。	「画面の雰囲気や優しい言葉だけでは危険を判断することが難しいため、フィルタリングを付けましょう。」
	③ 送信前には、誰が見るか、見た人がどのような気持ちになるか考えて読み返すこと。	「誤解を招く書き方はしていないか、相手の気持ちになって本文を読んでみましょう。」
	④ 個人情報や教えたり、知らない人と会ったり、自撮り画像を送ったりしないこと。	「中学生を狙って、いい人を装う大人もいるので、簡単に自分のことを知らせたり、会ったりすることのないようにしましょう。」
	⑤ 写真・動画を許可なく撮影・掲載したり拡散させたりしないこと。	「写真・動画を撮影する前に、相手の許可を得ましょう。」 「様々な情報を安易に拡散しないようにしましょう。」
	⑥ ながらスマホ・携帯電話の使用は危険なのでやめること。	「ながらスマホは、事故のもとになるので、やめましょう。」

交通安全

	必ず指導する基本的事項	一声事例
II-1 道路の歩行と横断及び交通機関の利用	① 道路における交通法規と安全な歩行の仕方を確認すること。	「登下校時、歩道を必ず歩きましょう。」 「道幅が狭い道では、広がって歩かないようにしましょう。」
	② 通学路の交通事情や通学方法に応じた安全な通学の仕方を確認すること。	「通学路の中で、危険な場所、見通しの悪い場所はどこでしょうか。また、その危険を回避するにはどのような注意が必要でしょうか。」
	③ 交差点を横断する際の危険について知り、安全な歩行の仕方を確認すること。	「人も車も集まる場所が交差点です。自分は大丈夫という油断が危険を招きます。」 「交差点に入る大型車には、特に注意しましょう。」
	④ 青信号で横断歩道を渡る際は、すぐに渡らず左右の安全を確認すること。	「青信号で横断歩道を渡る際は、交差点に入る自動車や横断歩道を渡る人にも気を付けましょう。」
	⑤ 雨や雪の日の安全な歩行の仕方を確認すること。	「傘などで視界の悪い状況で道路を歩くとき、どのようなことに注意したらよいでしょうか。」 「雨や雪の日には、滑りにくい靴で、急がずにゆっくり歩きましょう。」
	⑥ 明るい色の服装や反射材の効果を知ること。	「夜間では、明るい色の服装や反射材を身に付けることで、車から見えやすくなり、交通事故を未然に防ぐ効果があります。」
	⑦ 安全な集団歩行の仕方を確認すること。	「自分が自転車に乗っていて、集団で横に広がって歩いている人たちを見たら、どのように思いますか。」
	⑧ 踏切事故の原因と非常ボタンの取扱いについて知ること。	「警報が鳴ってからの無理な横断は、絶対にしてはいけません。」 「踏切で事故が起こりそうとき、非常ボタンを使って、危険を知らせることができることを知っていますか。」
	⑨ 幼児や高齢者、障害のある人に対して、どのような配慮が必要か考えること。	「幼児・小学生の模範となる交通マナーを心掛けましょう。」 「高齢者の方や障害のある方が横断歩道を渡っていて、青信号の点滅が始まったのを見かけました。あなたはどのような行動をとりますか。」
	⑩ 公共交通機関利用時に想定される危険について考えること。	「電車やバスに乗るときに、周りの人に迷惑をかけないように自分にできることを考えてみましょう。」
II-2 自転車の安全な利用と点検・整備	① 自転車の安全な利用の仕方を確認すること。	「『自転車安全利用五則』を聞いたことがありますか。どのような内容か説明してください。」
	② 雨天時や夜間の安全な走行の仕方を確認すること。	「習い事などで、夕方に自転車を利用する際には、ライトをつけ、運転に十分注意しましょう。」 「雨の日には自転車に乗る際は、必ず雨合羽を着ましょう。」
	③ 自転車に関する基本的な交通法規を知り、必ず守ること。	「自転車は、原則車道の左側を通行します。」 「二人乗り運転、並進通行、傘差し運転は、道路交通法で禁止です。」 「自転車は、車と同じ『車両』です。交通ルールを守りましょう。」
	④ 自転車の点検と整備をすること。	「『ブタベルサハラ』の確認をしましょう。」 「自転車の各部分の役割を知り、乗る前に点検をしましょう。」
	⑤ 加害事故の責任と補償制度を知ること。	「もしも、あなたが自転車に乗っていて事故を起こしたら、加害者になり多額の賠償金を支払うことがあります。」
	⑥ 自転車乗用時のヘルメットの必要性について考えること。	「ヘルメットをかぶっていれば、避けられるけがや助かる命があります。必ずヘルメットを着用しましょう。」
II-3 二輪車・自動車の特性と心得	① 車両事故の特徴を知り、安全な歩行や走行の仕方を確認すること。	「自動車が近くを通るとき、どのような注意が必要でしょうか。」 「自動車は急に止まれません。時速40kmで走っている自動車が止まるまでには、どのくらいの距離が必要だと思いますか。(20m以上)」
	② ヘルメットやシートベルトの効果を知ること。	「ヘルメットやシートベルトを着用していることで、衝撃を減らし、身を守ることができることを知っていますか。」
	③ 自動車の種類による死角と内輪差や、晴れの日と雨や雪の日の自動車の停止距離の違いなどを知ること。	「自動車からは見えない場所があることを知っていますか。」 「自転車・自動車が急に止まることができないことを理解しましょう。」
II-4 交通事故防止と安全な生活	① 地域の交通安全活動を知り、参加すること。	「全国交通安全運動を知っていますか。私たちの地域では、どのような交通安全活動が行われているでしょうか。」「地域の交通安全活動に参加しましょう。」
	② 交通事故が起こったときの通報や対応の仕方を知ること。	「警察や救急車を呼ぶときは、落ち着いて内容を伝えなければなりません。どのような内容を伝えればよいのでしょうか。」
	③ 応急手当の仕方を確認すること。	「応急手当（AED等）では、どんなことに気を付けますか。」 「事故に遭遇して、けがをしたらどのようにすればよいですか。」
	④ 自分たちにできる交通安全活動を考え実行すること。	「地域に交通ルールやマナーを広めるために、自分に何ができるでしょうか。」 「自転車の危険な乗り方をする友達がいたら、注意し合いましょう。」

理論編

学校における安全教育と安全プログラム

安全教育で身に付ける力

安全教育の3領域

必ず指導する基本的事項

安全教育の確実な実施のために

安全教育の計画

安全教育の評価

安全教育の計画例

実践編

実践事例一覧

生活安全における実践事例

交通安全における実践事例

災害安全における実践事例

一声事例（校種別）

資料編

	必ず指導する基本的事項	一声事例
Ⅲ-1 火災時の安全	① 「おかしも」の約束や避難経路、避難場所を確認すること。	「慣れた校舎内、自分の家こそ、避難経路の確認をしましょう。」
	② 火災の原因と危険について知ること。	「コンロの火などがついていいるときは、その場を離れてはいけません。火元から離れなければならないときは、必ず火を消しましょう。」
	③ 火災に対する心構えと安全な行動の仕方を確認すること。	「火災が発生したとき、目の前に炎がなくても自分の身に危険が迫ることがあります。必ず口元をハンカチ等でふさぎ、煙を吸い込まないようにしましょう。」
	④ 初期消火の方法を確認すること。	「火災が発生したとき、小さな炎のうちは、消火器などで火を消すことができます。消火器の正しい使い方を知っていますか。」
Ⅲ-2 地震災害時の安全	① 緊急地震速報の利用の心得を確認すること。	「普段から、物が『落ちてこない、倒れてこない、移動してこない』場所はどこか、考えておきましょう。」
	② 地震発生時の危険について知り、対処の仕方を確認すること。	「廊下など、机がない場所で地震が起ったら、どのようにして自分の身を守りますか。」 「大地震発生後には、火災が発生することもあるので気を付けましょう。」
	③ 集団で避難するときの「おかしも」の約束を確認すること。	「『おかしも』の意味を説明できますか。」
	④ 避難経路、避難場所を確認すること。	「〇〇前の廊下と食堂前の天井が落ちて通れません。どこを通ると安全に校庭に避難できますか。」
	⑤ 家庭での地震の備えについて考えること。	「いざというときに備えて、事前に避難経路や集合場所、連絡方法などをあらかじめ家族で話し合しましょう。」
Ⅲ-3 時の安全 火山災害	① 安全な避難場所と避難の仕方を確認すること。	「噴石の直撃を避けるため、強固な建物内に避難しましょう。」
	② 火山活動による危険を知ること。	「火山噴火により火砕流が発生します。発生してからの避難は困難です。火山情報などに十分注意し、急いで避難しましょう。」
Ⅲ-4 気象災害時の安全	① 風水害のときの危険を知り、安全な行動の仕方を確認すること。	「急な天候の変化に気を付けましょう。」
	② 落雷に遭わない安全な行動の仕方を確認すること。	「野外の部活動中に雷が鳴ったら、すぐに中断して、建物の中に避難しましょう。」
	③ 竜巻発生時の危険について知り、安全な行動の仕方を確認すること。	「室内にいるとき、竜巻が近づいてきたら、どうしたらよいか調べましょう。」
	④ 降雪時の安全な登下校の仕方を確認すること。	「雪が降ると、道路が凍結するなど普段の道路の状況と変わります。そのような状況で、あなたは登下校のときにどのようなことに気を付けますか。」
	⑤ 落雪が起る仕組みや雪害の影響について知ること。	「雪が降ることで、交通機関など通常とは異なる状況になります。」
	⑥ 特別警報等、気象災害に関する情報について知り、活用すること。	「身の安全を守るためには、インターネットやテレビ等で、災害情報を収集し、活用することが大切です。」
Ⅲ-5 時の安全 原子力災害	① 原子力災害による放射線放出と安全対策について知ること。	「原子力災害に関する様々な情報が入ってきたとき、何が正しい情報であるか、選択する方法を考えてみましょう。」
	② 放射線の身体への影響について知ること。	「放射線の種類と性質について調べてみましょう。」
Ⅲ-6 避難所の役割と貢献	① 避難所の役割を知ること。	「『一時集合場所、避難場所、避難所』の違いを言えますか。」
	② 避難所の生活を知り、自分たちにできることを考えること。	「大きな災害が発生すると、学校が避難所となることが考えられます。地域の一員として、中学生の活躍が期待されています。」
	③ 災害ボランティア活動に積極的に参加すること。	「避難所運営訓練に積極的に参加しましょう。」 「災害時、中学生としてできることは何かについて考えましょう。」
	④ 避難所となる学校や公的機関は、どのような備えがあるのかを知ること。	「学校や地域の『防災倉庫』、『備蓄倉庫』を見てみましょう。」
Ⅲ-7 災害の備えと安全な生活	① 地域の避難訓練・防災訓練に積極的に参加すること。	「災害から自分の命を守るには、日頃の訓練が大切です。」
	② 家庭での連絡方法を家族と相談し、決めること。	「9月1日が、なぜ、防災の日に指定されているのかを考え、地震への備えについて必ず家族で話し合しましょう。」
	③ 家庭での災害に対する備えに積極的に関わること。	「災害時に何が必要か、考えてみましょう。」
	④ 応急手当の仕方を確認すること。	「意識がない人の対処方法には、どのようなことがありますか。」
	⑤ 消防・警察・自治体等の公助の役割を理解すること。	「みんなのため、安全・安心を支えるのが、公助の役割です。」
	⑥ 消防団や自主防災組織の役割について知ること。	「自主防災組織の役割で期待されていることは何か、調べてみましょう。」

学校の実態に応じた、オリジナル「一声事例」で指導しよう

「危険を予測し回避する能力」と、「他者や社会の安全に貢献できる資質や能力」を育てるために、子供たちにどのような一声を掛けますか。

安全に関する知識を習得させる一声や、危険を予測し、判断する力を育てる一声、日々の生活において安全に生活しようとする意識を高める一声など、学校の子供たちのことを思い浮かべながら、一声指導を考えてみましょう。

一声事例	
生活安全	
交通安全	
災害安全	

※一声事例の内容を、A4判一枚にまとめた指導資料が東京都教育委員会ホームページに掲載してあります。週ごとの指導計画（週案簿）等に貼るなどして活用することができます。